
とある世界の波乱事件

ka-sa?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある世界の波乱事件

【Nコード】

N6439Y

【作者名】

ka-sa?

【あらすじ】

ごくごく平和な日常に大きな陰謀が忍び寄る。3人のヒーローと周囲の人物やオリキャラが若干のギャグ要素も含みながら発展するストーリー。

第1話、&1t;波乱事件の予兆> ; (前書き)

初掲載です。もの足らぬ事もあると思いますが、頑張っていくきます。
ぜひ、アドバイスや、感想をお願いします。

第1話、& 1 t ; 波乱事件の予兆 & g t ;

1

とある男子寮の一室、暗い中にテレビの画面だけが光り輝いている。その部屋の窓際に配置されているベッドに布団が丸まって乗っかっている。

ピピピッ、と目覚ましが鳴ると布団がモゾモゾと動き始めた。

函南「ふあああ〜・・・よく寝た・・・」

布団から出てきて身体を気持ちよさそうに伸ばしたのは、函南 尚輝である。

函南はケータイを開いてギョツとした。

親友の二人との待ち合わせ時間の七分前だったのだ。

急いでパジャマから私服に着替え、朝食を済ませ、猛スピードで部屋を出て行った。

数分後

函南「ハア・・・ハア・・・ゴメン、ゴメン！」

待ち合わせ場所に走ってきた函南は息を切らしながら謝った。

咲来「全く・・・遅えぞ！」

皆方「まあまあ、函南も謝ってる事だしさあ、許してあげよあよ？」

この三人が集まると馬鹿騒ぎする事が目に見えている。なので、

市導「馬鹿騒ぎしたら風紀委員ジャッジメントに通報するから注意してね（ニコッ）

」

しっかり者の市導が監視役として来ていた。

といいつても一番テンションが高いのは市導だった。なぜなら、今日の目的は遊園地だからだ。

>パラレルスウィーツパーク<、最近はまあまあの人気を誇るテーマパークである。

市導「ねえねえ、早く行かない？」

市導がノリノリなのは言うまでもない。早く行きたくてウズウズしているようだ。

函南「じゃあ、行くか。」

2

学園都市の路地裏の暗闇。遂、先程までは銃声が響いていた路地裏だ。

? 『お疲れ様です、一方通行アクセラレータ。後の処理は我々にお任せを』

1人の少年の持つ携帯電話からの声だ。

一方通行「切るぞ、海原」

学園都市の、超能力者（レベル5）の、頂点である1人の少年、一方通行は乱暴に携帯電話を切った。彼は暗部組織である>グループ<の構成員だ。目的は、各構成員で異なったりするのだが。

一方通行「さアて、さっさと帰るか」

彼は現代風のデザインの杖を拾い、歩き始めた。そんな一方通行の耳にスニーカーの足音が届いた。

？「久し振りだにや〜、一方通行」

逆立てた金髪にアロハシャツ、金のネックレスにサングラス。誰がどう見てもガラの悪い不良だ。

一方通行「土御門オ・・・何の用だア？」

土御門つちみかど 元春もとはるのサングラスが僅かな光を反射する。

土御門「>グループ<外の話だが・・・お前の知る、木原一族についてぜよ」

木原一族には現在、行方不明の木原きはら 数多あまたや、テレステイナーキ木原きはら ライフライン、木原きはら 幻生げんせい、木原きはら 那由他なゆたなどが知られている。ある程度の情報は、先程の通話相手の海原うなはら 光貴みつぎから聞いている。

土御門「最近、学園都市内で木原一族の1人、木原きはら 封記ふうきって奴の動向が怪しいんだにや。ソイツは決して科学サイドって訳じゃないんだぜい。魔術サイドだにや。だが家系が研究者なだけに科学につ

いては、豊富な知識を有しているんだにや。その点に関しては海原に勝っているんだにや。原典を持っていて魔術を使う、ただ1人木原一族だぜい。」

多重スパイとして活躍する土御門は、多くの情報源から必要量だけを選んで情報を得ているらしい。

一方通行「へエ・・・なかなか面白エ話じゃアねエか。だが、今の俺と何の関係がある？」

土御門「ソイツは>神の右席くに介入、その後は学園都市にも出入りしているぜよ。そして、とある作戦の為に最終信号ラストオーダーを利用しようとしているって訳だにや」

一方通行は舌を出し、唇を舐める。

一方通行「良い度胸じゃアねえかア・・・あのガキには俺がいるって事を分かせてやるよ」

3

とある男子寮。風呂場から出てきたのは上条かみじょう 当麻とまである。

上条「いやゝ、我ながら良く寝ましたつと。って・・・ギクウウ！」

床に1人の純白のシスターが横たわっていた。上条からすると、あからさまに不幸のにおいがする。

上条「あの・・・インデックスさん？何故、そこに倒れているの
でせうか？」

純白のシスターが、ギギギツという効果音と共にゆっくり顔をあげた。

インデックス「ねえ、とうま？今、何時だと思っているんだよ？」

上条「え〜つとあ〜〜・・・午後の・・・二時・・・です・・・」

その瞬間、インデックスが恐るべき跳躍力を見せた。ほとんど床にピッタリとついていた状態から、そのまま上条の頭に噛み付ける程の跳躍力を。

上条「ギヤアアアアアアアアアア！不幸だあ〜〜！！！！！！」

上条は起きて早々にこんなに痛い目に遭わなくてはならないか疑問に思った。だが、

インデックス「とうま〜！ご飯を早く出してほしいかも！」

この大食いシスターから逃げる事は出来ない。

上条「はいはい、分かりましたよ。インデックスさん」

渋々、キッチンへ向かった上条だったが、1つの違和感を感じた。

上条「無い！れっ冷蔵庫の中身が・・・キレイサツパリと消え去っている！俺が食べる筈だった黒蜜プリンを含めて・・・インデックス！冷蔵庫の中身、食ったろ！？」

インデックス「ん〜〜〜・・・テヘッ（ニコッ）」

上条「はああ〜〜。．．．不幸だ．．．」

ピンポン

上条がすっかり肩を落としていると、インターホンが鳴った。

上条「あっ、はいはい。今、出るからな！」

良かったあ〜助かったあ〜、と嬉し泣きしながらドアへ向かっていく上条。

とある事件に巻き込まれる事を知らずに。

第2話、& 1 t ; 波乱事件の足音 & g t ;

1
とある男子寮の一室で上条^{かみじょうじ} 当麻^{とうま}はインターホンが鳴った為、玄関の扉を開けた。すると、

上条「あれ？イタズラか？・・・でも男子寮だからな・・・もしかして土御門か！？」

そう思い、上条は隣の部屋のインターホンを押したが、応答がない。どうやら居ないらしい。

自分の部屋へ戻る為、上条が振り向くと扉に一つの茶封筒が立て掛けてあった。

インデックス「と〜ま〜！お腹へったあ〜〜！」

叫びながら部屋から出てきたインデックスを横目に上条は茶封筒を開けた。

中には明らかに古そうな便せんが数枚、入っていた。

拝啓、初めまして。私の名前は木原^{きはら} 封記^{ふうき}といたします。

上条さんの御話を元同僚の右方のフィアンマから聞きました。是非、御手合わせ願いたいものですが、

今回は別件です。私たち>神の右席<はローマ正教から独立致しました。そして、

新生>神の右席<は第一歩として貴方達、上条勢力を排除しローマ正教、イギリス清教、ロシア成教の

十字教旧教三大宗派への牽制、及び忠告とさせて頂く方針となりました。

名のある人から言えば、インデックス禁書目録やかんざき神裂、かおり火織さん、科学サイドで
いえば、
みさか御坂 みさか美琴さん等、マジック魔術サイド、サイエンス科学サイド関係なく排除させて頂
きます。
では、後ほど。

2

レールガン常盤台中学の超電磁砲こと、御坂 美琴は公園の中にある自動販売
機に蹴りを入れていた。

美琴「ヤシの実サイダー、ゲット〜?」

上機嫌でベンチし座り、ヤシの実サイダーを飲む美琴。そこに後ろ
から声を掛けられた。

?「み〜さ〜か〜さん!」

ベンチの後ろから顔を出したのはさてん佐天 涙子だ。その隣にはついはる初春
かぎり飾利がいる。

美琴「佐天さんと初春さん!ビックリさせないですよ」

佐天「ビックリさせるつもりはありませんでしたよ」

ニコニコしながら言う佐天を見れば、嘘だという事はバレバレだ。

美琴「あれ?初春さん、シマツジメン黒子は?風紀委員じゃなかったの?」

初春「ああ、それなら・・・」

その瞬間、シユンという音が聞こえた。続いて美琴にとって聞き慣れた声も聞こえた。

？「う〜い〜は〜る！また仕事から抜け出したんですの！？」

美琴の女子寮でのルームメイト、白井しらい 黒子くろこだ。大能力者（レベル4）の空間移動テレポートの能力を持ち、風紀委員で重宝ジャッジメントされているらしい。

黒子「行くですよ！初春！」

初春「うわあ〜ん、新作パフェ食べたかったのに〜」

黒子は初春の襟を掴むと空間移動テレポートで消えてしまった。

佐天「なんか・・・風紀委員ジャッジメントも大変ですね・・・」

美琴「そ、そうね・・・」

3

次の日になり、上条はある高校へ向かった。まあ、登校中にも様々な不幸な目に遭ったのだが。

上条「やつ・・・やつと着・・・いた・・・」

全身全霊フルパワーを使い果たし、席に着くなり机に塞ぎ込んでしまった。

？「上や〜ん、相変わらずの不幸オーラやん。」

この似非関西人は、青髪ピアス（本名不明）だ。

上条「しよーがないでせう、三輪車に引かれたり、ゴミ収集車に激突されたり・・・」

その時、チャイムが鳴った。まるで計った様なタイミングで月詠つぐよみ小萌こもえが教室に入ってきた。

学園都市の七不思議に登録される程の身長で、135cmしかない。

小萌「は〜い、ホームルーム始めるですよ〜」

甲高い声が教室に響いた。上条は窓の外を眺めながら思う。

上条「（あの封筒・・・一体何なんだ？）」

ポーツと眺めていると、席替えて隣になってしまった吹寄ふきよせ 制理せいりが小さい声で話掛けてきた。

吹寄「（上条当麻！ホームルームに集中しなさい！）」

上条「（木原って日本人だよな・・・？ソイツが何で>神の右席<なんかに？）」

吹寄「（きつ、聞いているのか?!上条当麻!）」

上条「（待てよ・・・>神の右席<って事は、あと三人居るのか!?)」

その瞬間、ビキツと嫌な音がして吹寄のこめかみに青筋が浮かぶ。

それとほぼ同時に吹寄が立ち上がった。

吹寄「小萌先生！上条当麻がホームルームに集中していないので裁きを加えますっ！」

上条「えっ？」

小萌「だっ駄目ですよっ！吹寄ちゃ……」

次の瞬間、上条の目の前に広い額が。次に鈍い音が聞こえて、上条は気を失った。

4

数分経つたのだろうか、上条は保健室のベッドの上で目を覚ました。

上条「俺は……？吹寄にやられたんだっ……で、アンタ達は誰？」

隣に座っていた二人組の少年少女にごくごく自然に聞いた。

函南「ああ、俺は函南かななみ 尚輝なおき。」

市導「私は市導いちどう 嵩奈しゅうな。先生に強引に押し付けられて面倒見る羽目になっっちゃったんだ。」

ベッドに横たわったまま上条は純粹に思った事を口に出す。

上条「二人は……恋人なのか？」

その瞬間、市導は顔を真っ赤にして否定する。

市導「ちつち違つよっ？……まあ、確かに尚輝の事は好き・
・だけどさあ」

市導は赤面状態のまま、函南の方を見たが、函南は腕を組んで眠っ
ていた。

すると鐘の様な、ゴォーンという音と共に函南が飛び起きた。

函南「痛つつつてええ！！何すんだよ！市導さん！」

さっきの鐘の様な音は市導が殴った音だ。その市導は、「せっかく
言えたのに……」とブツブツ呟いているが、上条には聞こえな
かった。

& l t ; 波乱事件の産声 & g t ;

1

保健室から上条かみじょう 当麻とうまは出てきた。隣には先程まで世話してくれた、
函南かんなみ 尚輝なほきと市導いちどう 嵩奈しゅうながいる。どうやら上条と隣のクラスらしい。

上条「ホント、世話になったな。ありがとう」

市導「いゝよ、先生に頼まれただけだし」

そうして渡り廊下で別れたのだが、何故か函南が市導に頭を下げて、
こちらに走って来た。

上条「どっ、どうした？」

函南は若干、息を切らしていた。だが、彼の口は思ったより滑らかに動いた。

函南「右方のフィアンマを打ち砕いた右手をもう少し見たくてな」

上条「ッ！」

上条は息を呑んだ。まさかこの高校で自分と土御門以外にその名を知っている者がいるとは、思っていなかったのだ。そんな上条を見て、函南は薄笑いを浮かべる。

函南「>幻想殺しく・・・いかなる異能の問答無用で打ち消す力・・・
だろ？」

上条「何で・・・？」

函南「俺の所属は必要悪の教会く。アンタの知ってる、土御門つちみかど元春もとはると同じように、スパイとして学園都市に来てる。ダブルスパイをこなす程、器用ではないけどな」

頬に着いている大きな絆創膏を掻きながら函南は言った。良く見ると、金の首飾りを着けていて形状は十字架だ。

函南「上条、いますぐこの学園都市から出ていけ。なんなら力づくでもいいけどな」

上条はガリッ、という音を聞いた。だが、自分自身が齒軋りした音だと気づいていないようだ。

上条「テメエ・・・何様のつもりだ・・・？テメエが必要悪の教会くなら分かってんだろ？この学園都市にはインデックスもいるし、友達もいる。なのに、何で出ていかねえといけねえんだ！」

函南「Oracle013・・・まあ、色々あつて意味まで説明したか無いんで、省かせてもらうぞ」

その瞬間、函南の懐からルーンの刻まれたカードがばら撒かれた。そして函南は呟く。

函南「世界を構成する五大元素の一つ、偉大なる始まりの炎よ。それは生命を育む恵みの光にして、邪悪を罰する裁きの光なり。それは穏やかな幸福を満たすと同時、冷たき闇を滅する凍える不幸なり。その名を炎、その役は剣。具現せよ、我が身を喰いて力と為せ」

上条は知っている。この魔術はステイル^{II}マグヌスが使う魔術・・・
上条「魔術って・・・能力開発のカリキュラムを受けたから使えない筈じゃ・・・」

函南「俺は無能力者の現状維持だ。^{チェンジレス}傷付いていない状態を維持すれば何ともない。それ以外に能力は発揮出来ないけどな」

またも函南は薄く笑い、叫ぶ。

函南「いでよ！魔女狩りの王！」

2

暗い路地裏で十人程の不良が倒れている。その中心に立っている一人の>漢く。

?「つたく！最近のこういう輩は根性が足らねえ！いや、我慢か？！我慢なのか?!」

学ランに鉢巻、旭日旗Tシャツ着用した>漢くが騒いでいるのを尻目に一方通行は、その路地裏を通り過ぎていく。目的の場所は、大型ショッピングモールの一室。情報が正しければ、そこには木原^{キハ}封記^{ふうき}がいる。打ち止め（ラストオーダー）を守る為に倒さなければならぬ相手だ。

?「で、なんでミサカも駆り出されてんの?」

一方通行の隣には番外^{ミサカワースト}個体がいる。

一方通行「一応、ネットワークから多少、疎いテメエがいた場合、逆探知される事があるうが関係無くなんだろ。あのガキを利用しよオとしてる奴だア・・・何を仕組ンでるか、分かんねエからなア」

その時、前からカツン、という革靴の音が反響してきた。一方通行は前方を見るが、暗闇で何も見えない。

一方通行「おい、電磁波で前を見てみる」

番外個体「何でミサカが・・・」

一方通行「良いから早くしゃがれ！」

渋々応じた番外個体だったが、次の瞬間、表情から余裕が消えた。

？「こりゃあ、御初に一方通行と番外個体」

暗闇から出てきたのは一人の男だった。2mはあるであろう長身、どちらかと言えば足長体型。身体は痩せている。髪は黒く、短い。瞳の色は、不自然な赤色。服装は紺のジーパンに白いYシャツというラフな格好だが、ジーパンには派手なダメージ加工、Yシャツの袖は解れている。年齢は20歳前後だろう。

？「俺は、木原 封記っつーんだが、ある意味では仮の名前だな。今は、木原 鍼騎きよつてのが正しーんだが、お前にとってはどーでもいーんだろ？一方通行？」

一方通行「ああ、そのとおり！よく分かってンじゃねエか！」

一方通行は首筋の電極手を掛ける。そして驚異的な速さで鍼騎に詰

め寄る。一方通行の拳が鍼騎に叩き付けられる・・・筈だったのだが、>ベクトルを変換する能力<を無視されて、鍼騎に拳を掴まれる。

鍼騎「黙れ、小童が」

その瞬間、またも>ベクトルを変換する能力<を無視され、鍼騎の脚によって吹き飛ばされた。

一方通行「グア・・・ガア・・・クソツたれがア！」

吹き飛ばされながらも、一方通行は空中でベクトルを変換し、またも鍼騎の方へ向かっていく。

鍼騎「つたく、だからさー」

呆れた様子で鍼騎は口を開きながら右掌も開いた。その掌には一つの魔法陣が。

鍼騎「黙れってんだ、クソ小童！」

魔法陣が黒く光り始め、辺りを包み込んだ。すると、一方通行が勢いそのままに地面に落ち、五回程バウンドした。一方通行は血反吐を吐きながら、

一方通行「クソツオたれがア・・・何なんだ、その紋章みてエなのはア?!」

鍼騎は恐ろしい威圧感と共に満面の笑みを浮かべて言った。

鉦騎「>幻想殺しくっつーのは知ってんか？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6439y/>

とある世界の波乱事件

2011年12月4日01時53分発行